

第 1 1 回定例委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名 (木村委員)

教 育 長) 日程に入る前に、ご報告させていただきます。

松本朋子教育委員の任期満了に伴い、去る 9 月 4 日に開かれました定例市議会で議会の同意を得て、越野睦子氏を教育委員に選任いたしました。任期は平成 2 9 年 1 0 月 1 日から平成 3 3 年 9 月 3 0 日までです。

4 年間どうぞよろしく願いいたします。

それでは、審議に入ります。日程第 1、報告第 1 2 号「平成 2 9 年度全国学力・学習状況調査の結果について」を議題とします。提案説明を求めます。

学校教育課長) <議案資料に基づき概略説明>

教 育 長) 夜遅くまで塾で勉強をし、朝はぎりぎりに起きて朝食を食べずに登校するということもあるのでしょうか。その点に関しては、一概にデータと結びつけるのは危険だと思いました。

説明が終わりました。質疑はございませんか。

越 野 委 員) 数学や国語など、指導の改善の方向性が書かれておりますが、前回もこのような様式だったのですか。

学校教育課長) そうです。

越 野 委 員) 前回課題となった点は、今回はどのように改善されたなどの分析はされていますか。

学校教育課長) この結果につきましては、来月行われる校長会で、同様の

説明をするとともに、それぞれの小、中学校の授業研究の担当者を集め、授業の改善に向け、課題や今後の取組などの話を進めていく予定です。前回との改善点の比較につきましては、今回の結果をもって改善につながったかどうかで見せております。

越 野 委 員) わかりました。

小 石 委 員) 5 ページの数学では統計が問題となっていますが、この授業はあるのですか。

学校教育課長) はい。

小 石 委 員) では、範囲というテクニカルタームが、平均などと同じように出てくるわけですね。タームとして出てきているのに知らないというのは、あまりよくないことですね。

浅 井 委 員) 小学校のお礼の手紙を書くという国語の問題ですが、正答率が割と低く、全国平均を下回っています。授業の中で実際に手紙を書いたりはされていますか。

学校教育課長) 手紙の基本的なところは学ぶべきことになっているので、授業では取り扱っております。自然学校や修学旅行に行った後のお礼状なども直接書いて送っております。しかし、こうしたこと以外で実際に手紙を書く場面がないため、ほとんど経験がありません。

浅 井 委 員) そうですね。

小 石 委 員) 教科書の中に手紙文は出てきますね。教科書中に手紙の例は出てきていますが、余り見ていないということですね。ですので、先生方は意識して教えなくてはなりませんね。

浅 井 委 員) 手紙の単元を学習するときに、実際に自分で書いてみると、また違うのではないかと思います。

そして、今は大人でも横書きの時代です。縦書きで文章を書く機会はなかなかありませんが、文字の成り立ちとして日本語は縦書きが一番あっていることもあります。縦書きはあまりなじみがないため、子どもたちも苦手なのではないかと思いますが、その辺を少し丁寧にやっていけるといいなと感じます。

小石委員) そうですね。横書きの場合、一番上に相手の名前を書きます。その辺が日常的に使う横書きと、縦書きとの差ですね。このような経験は、子どもたちは余りしていないのかもしれませんが。

教育長) 正解を見つけ出すという入試的な観点からすると、自分の名前は下に書くものと覚えていれば、それを選ぶだけで正解できますね。

小石委員) 私は自分でも横書きする場合、こういう形で書くと相手の名前が一番下に来ますね。これはどうなのだろうと私自身思うこともあります。

浅井委員) それを横に直すと、Dear. 何とかという関連が一番下にくるということになりますね。これは、日本の伝統的な書き方ですね。

小石委員) 子どもたちは余り、日常的にそのような文章を読む機会がないと思いますので、改めて縦書きの場合について教えないといけませんね。

木村委員) この問題は学力テストに出題されているので、教えるべきものと位置付けられているのですね。練習として両親宛ての手紙を書くなど、何かテーマをもうけて書いてみるのも一つの手だと思います。

教 育 長) 決裁に、谷崎潤一郎氏が書いた手紙がありました。その手紙もこのような形になっていました。

小 石 委 員) 人によっては、相手の名前が最後の行に来る場合には、新しい紙の最初の行に相手の名前をかかれることもあります。手紙は、相手に対しての思いをどのように表現するのかというものですからね。

木 村 委 員) 最近はメールの書き方がわからない新人の社会人も多くいます。普段使っているLINEなどのアプリは、宛先などを書かずに送るものだからです。ですので、宛先と自分の名前を書いて送ることがどんどん薄れていっている背景があると思います。しかし、それでは社会に出たときに困るので、しっかりと教えておかななくてはならないと思います。

小 石 委 員) 私は小学校のときに、手紙の書き方を教わったのを今でも覚えています。

浅 井 委 員) 相手の名前は上に、自分の名前は下に書くという気持ちを指導していただけたらと思います。

小 石 委 員) 11ページに記載されている勉強時間については、小学校はすごく高い割合で、たくさん勉強していますが、中学校は相対的にみて、それほど割合が高くありません。芦屋の小学生は、中学受験に向けてすごく勉強しているのだなという印象を受けました。これはとても特徴的なものだと思います。

教 育 長) 中学校になると私立に進学する児童が多いです。

小 石 委 員) そうですね。

越 野 委 員) 芦屋の子どもたちは、勉強はよくできていますが、学習に対する意識調査では勉強は大切だと思う、役に立つと思うとい

う項目で、全国平均を下回っています。それでも、成績がいいということは、やらされている感が強いのではないかと思います。中学校になるとその傾向がもっと強くなっているのです。本当に授業を楽しめているのかなということが心配になりました。

学校教育部長) 私もその点が非常に気になっております。新しい学習指導要領も、学んでいることと社会とがどのようにつながっているのかをもう少し関連させることで、開かれた教育課程にしなければいけないことが書かれております。今後は、新しい学習指導要領に向けての各学校での取組などを、教育委員会から指導していきたいと思っております。

越 野 委 員) 質問事項の、自分にはよいところがあると思うという項目が、30%台というのは本当に残念なところですね。成績をよくすることは、とても大切なことですが、将来的にいつか学ぼうと思えば学べる時が来ると思うのです。しかし、自己肯定感は小さい頃から育てていかないと、急に育つようなものではないと思っております。

下のコメントにもありますが、何か達成したことを評価していくことも大切だと思います。しかし、それだけではなく、あなたがいることだけでみんなが幸せなのだよということや、あなたが生きていることは意味があるのだよというような日ごろからの声かけも大切だと思います。

P T A 協議会では、保護者向けに講演会なども企画されているので、このような結果を踏まえ、自己肯定感を上げるような、家庭向けの講演会を実施していただくなどの連携をとるのもいいと思っております。

小石委員) 12ページに、授業が楽しいと思うかなどの項目があります。こうした項目の、そう思うと答えた回答率の高さにしても、それを素直に読み取るとはなかなか難しいのではないかと思います。結構自分の要求水準との関係で結果が出るもので、ひょっとしたら芦屋の子は要求水準が高いから、結構勉強ができていても楽しいと感じているかという、そこはわからないという答え方をしている可能性もあるわけですね。

だから本当のことを言うと、このデータと算数や数学の理解度合データとの相関をとってみて、どのくらい相関があるのかということグラフ化すると、意外と僕はU字曲線になっているのではないかと思います。できない子が意外とわかると答え、できる子も当然わかると答えます。しかし、ある程度の理解の子については、意外とわからないという答えが多いのではないかと。そうすると、グラフで表した場合、U字曲線になっているのではないかと想像するのです。ですから、この質問項目の結果での捉え方は、結構難しいなといつも思います。

教育長) 今の話に少し関連しますが、大学入試を受けてきた子に、出来栄を聞いたとき、合格した子は、できなかった点を具体的に答えるのですが、不合格となった子は何ができていないかわからないため、できたと答える傾向があります。

小石委員) そうですね。できていない子ができたと言う認識を持ちやすいのに対して、本当にできる子は本当にできたと言い、それなりにできる子はできなかった点やできた点をしっかりとすることができます。ですので、この数値を慎重に見て、相関をとってみると意外とおもしろい結果が出てくるのではないかと思います。

います。

浅井委員) 全体的に、私が委員をさせていただいた5年前から比較すると、飛躍的に成績も上がり、実力が定着してきていると感じており、安心しております。兵庫県の中学校の数学Aも、今年は全国で3位という成績をおさめております。それに伴い、先生方の努力もあり芦屋の数学の成績も随分高くなっているのですが、微妙な変化はありますが、安心しております。

12ページの質問事項33番は、阪神・淡路大震災があったことにより、ボランティアという言葉が定着したのに、ボランティア活動に参加したことがある子がすごく少ないことは残念だなと思います。芦屋市こそ、そのようなことを率先して実践して行ってほしいと思います。

質問項目34の新聞をほぼ毎日読んでいるという項目は、多くの子どもが新聞を読んでいますので、芦屋市の特徴をあらわしているなと思いました。文部科学省の分析でも、新聞を読む習慣のある子どもの方が、全ての教科において正答率が高くなっているという結果がでていきますので、関係がありますね。

一方で、新聞を読む習慣のある子どもの割合も減少傾向にあります。せっかく芦屋市は新聞を読む習慣がある子どもたちの割合が、小学校で17.1%、中学で8.1%とかなり高いので、そこを伸ばしていけるといいなと感じています。

小石委員) 最近は新聞をとっていない家庭もあるようですので、読みたくても読むことができない環境の子も増えてきていると思います。

浅井委員) 以前は、広報誌も新聞の挟み込みだったのが、今は全戸配

布に変わりました。

木村委員) 質問事項35の回答で、ネットやスマホでニュースを見るということもあり、かなり数値が上がってきています。大人も同じで、ネットの普及で紙媒体の新聞は消えていっている時代です。この問題は単純には言えないところがあると思いました。

浅井委員) 社会の授業の中で、あえて新聞を使つての授業を行うなどの工夫も必要になるのではないかと思います。

学校教育課長) 以前は、先生が子どもたちに新聞を持ってきてくださいと伝えると、当たり前のように集まり、新聞を使つていろいろな授業を行うことができましたが、現在は、新聞をとっていない家庭もありますので、そうした授業ができなくなりつつありますが、このような環境の中でも新聞は大切ですので、学校図書館には必ず新聞を置くようにしております。今後は、もっと新聞とふれあう機会を増やさなくてはいけないのかなと思っております。

浅井委員) お願いします。

小石委員) 9ページの教育委員会の取組について、毎年言わせていただいているのですが、(1)学習指導・授業研究の充実の項目で、子どもたちに学び方を教えていただきたいと思っております。学力がうまく上がらない子は、勉強のやり方がわからないため、家庭での勉強ができないのだと思います。勉強のやり方さえわかればできる子も何人かいると思います。

例えば、総合的な学習の時間などを利用して勉強の仕方をみんなで話し合うなど、工夫して教えたほうがいいのではないかと思います。先生がしっかりと見て、評価をするチャンスがあ

れば、頑張ることができる子もいるのではないのでしょうか。それでもやらない子もいると思いますが、そうすることで救われる子はきっといると思います。

この結果は芦屋市全体の結果をまとめておられますが、学校ごとに結果を出すと全然違うものになると思います。教育委員会でやっていると思いますが、学校ごとの弱点や、どの部分を強化して指導するべきかについては、分布図で表すとわかりやすいと思います。それによって対策が変わってくるので、それぞれの学校ごとに分析し、今後どのように克服し、勉強が苦手な子たちをどう工夫して引き上げていくかなどの対策を話し合っていたきたいです。

学校教育部長) 次の校長会で各学校の校長先生に、その分布を使って自分の学校の課題を見つけていただきながら話し合っていたらこうと考えております。

小石委員) お願いします。

教育長) 子どもたちに宿題を出したとしても、その宿題の内容が理解できていなくて何をしたらいいのかわからない子と、内容はわかっているけれどもやらない子などいろいろな子どもがいると思います。先生方は試験などを行っているので、大体把握されていると思いますが、子どもたちそれぞれの理解度に合わせてフォローをしてほしいと思います。例えば、辞書の調べ方など基本的な学習習慣の入り口を小学校や中学校で教えて欲しいです。

子どもたちみんなでどのようなノートの取り方がいいのかなど話し合ったり、発表したりするなど、こちらから押しつける

のではなく、自主性をもった学習する仕方を考えさせてほしいです。学校ごとに差があると思うので、実態に合わせた、工夫した対応を行っていただきたいと思います。

浅井委員) 質問事項の22番の家で学校の授業の予習をしていると、23番の家で学校の授業の復習をしているという項目について、特に小学生がどちらもすごく低いです。これは塾で勉強をしているから低いということなのかもしれませんが、そうでない子もいるかもしれません。家で勉強をする習慣がもてていないということも考えられます。以前から予習復習と言われていますが、やはりそれが基本だと思います。

木村委員) 思い返すと、私も予習も復習も全然しておりませんでした。しかし、1人学びというものはやっていました。中学校ぐらいから成績が落ちてしまったので、問題集などを買い、それをゲーム感覚でやっていました。問題を解き、答え合わせを自分でやり、合っていたらうれしいですし、ある程度繰り返すとさらに点数が伸びていきます。自分が成長していくところが、ゲームのような感じでおもしろいなと思ってやっていました。

脳科学者の茂木健一郎先生も同じことを言っておられました。勉強を1つのゲームととらえることで、それによって知的興奮を覚えたり、クイズを見て答え合わせをするような感覚になります。ですので、そのようなループができると、自分で進んでどんどんやるようになっていくと思います。勉強ができない子であってもできる子であっても、そのような1人学びのおもしろさや、楽しさを教えることがいいのではないかと思います。

学校教育部長) 基本的に、宿題や課題で勉強が終わってしまい、主体的に

行う1人学びをしている子は少ないと思います。塾に行っている子どもたちは、学校の宿題をやり、塾の勉強をこなし終わる頃には、もう寝る時間になっていると思いますし、塾に行っていない子どもたちは、宿題をやり、ほっとして学校へ行くという繰り返しになると思います。ですので、この結果は芦屋独自の部分もありますので、今後その部分をどのように、学ぶことを広げ、自己肯定感が高まるような形で学んだり、活躍できたりすることに結び付けていくかが大事だと思います。

小石委員) 各学校の特徴に応じて、どのように対応するかを考えていただきたいと思います。一般論ではなかなか言えないところがあると思います。

教育長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、「平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について」の報告は以上といたします。

〈報告第12号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教育長) 次に、報告第13号「第28回富田碎花賞受賞者及び受賞作の決定について」を議題とします。提案説明を求めます。

生涯学習課長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教育長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

市民センター、ルナ・ホールで「富田碎花と谷崎潤一郎」と銘打って、谷川俊太郎先生に来ていただくイベントを企画しました。今回は、富田碎花賞の贈呈式とリンクしづらかったのですが、今までの贈呈式は関係者だけの出席ですので、こういうものと上手くリンクできて、ホームページで取り上げるなど、

広く周知できればいいと思います。これからもずっと続けていききたいイベントの1つですので、贈呈式とリンクできたら一番よかったですね。

浅井委員) そうですね。

教育長) 今後は、そういう工夫もちょっと考えていきましょう。

浅井委員) 今回からどうして平日にされたのですか。例年、土曜か日曜に開催されていたと思います。その方や、関係者の方もお集まりいただきやすいのではないかと思います。学校の先生や学生にとっても休日のほうが参加しやすいのではないかと思います。ですが、いかがでしょう。

生涯学習課長) 今回は先生や委員の先生のご都合により、平日の開催になりました。委員の先生方からも、贈呈式の日是一般の方にも来ていただけたらいいのではとおっしゃっていただいておりますが、来られる方といっても、詩に興味のある方になります。大学の文学部などにご案内してみるのはいかがでしょうかと提案もいたしました。文学の中で詩を専攻されて、授賞式まで来られる方はなかなかおられないでしょうと言われました。また何か良い案があればご提案いただきたいとは申し上げているところです。

11月1日号広報に、今回の授賞式のことを掲載しますので、一般の方も来ていただければとは思っております。

受賞者等の公表については、11月10日の協議後になる関係上、先日谷川俊太郎氏の講演会がPRできる機会だったのですが、残念ながら富田碎花のチラシをお配りできませんでしたので、急遽、ご案内のみを後でお渡しした形になっております。その辺も当初から計画を立て、市民センターと連携できること

もあるなど、今回の件で課題も見えてきましたので、今後気をつけていきたいと思います。

浅井委員) その辺はぜひお願いします。詩という独特の文芸の芸術ですが、それだからといって関係者のみに閉ざしてしまうのではなくて、より開かれた形でPRしていくべきだと思いますので、そのあたり日程のこととかいろいろ難しいとは思いますが、ぜひ効果的に行っていただきたいと思います。

生涯学習課長) わかりました。

木村委員) 応募数がかなり減ってきて、有料の広告も考えておられるという話ですが、これまではどのように広報されていたのでしょうか。

生涯学習課長) これまでは顕彰会の方が主催でしたので、顕彰会からの支出は特に制限ありませんが、主催が市に変わりましたので、市の支出として有料広告までするのが適当なのかというところがあります。委員の先生からも有料広告を出したらいいのではないかとのご意見もありますが、これについては、財政課と協議していく必要があります、これもまた課題のひとつです。

木村委員) 以前は顕彰会が有料広告を行っていたのですよね。行っていたけれども、それをやらなくなったので減ってきたということでしょうか。

生涯学習課長) いいえ。以前からも毎年はお出しなかったようです。

木村委員) 出していなかったのですか。では、顕彰会の方々はどのようなPRをされていたのでしょうか。詩の雑誌などに載っていれば、興味を持つ方、応募しようと思う方もおられると思うのですが。それが広告という形でなくても、何か記事にしてもら

うとか、そういうことが可能であればかなり増えると思うのですがいかがですか。

生涯学習課長) 主催が顕彰会から市に移った経緯といたしまして、顕彰会の方々が御高齢になられて、以前ほどの活動が難しくなったことがあります。近年、応募数も減って100ぐらいになっているのはその活動状況にもよるかと思います。特に、広告は出されてはいなかったのですが、先生のとつとか、顕彰会の方々のとつとか、そういったこともかなりあったようです。今回も、委員の先生に募集要項をお渡しして、様々な会に出られるときにご周知していただくようお願いはしておりました。

委員の先生もどうしてだろうとおっしゃっていたのですが、とにかく富田碎花賞は大変すばらしい賞ですので、それが最近、こうやって応募数が減少しているのは悲しいことですし、賞で優劣をつけるわけではないのですが、この賞は大変権威あるものですので、盛り立てていきたいとおっしゃっていただいております。

教 育 長) アピールしましょう。芦屋市もSNSも立ち上げましたし、そうしたものを有効的に活用していただきたいです。このまま縮小してしまうことになるのは、大変悲しいことです。

浅 井 委 員) 25回の際は応募数が90作品から140作品と大分増えたのに、そこからまた減少傾向にありますので、なんとかよろしくをお願いします。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、「第28回富田碎花賞受賞者及び受賞作の決定に

ついて」の報告は以上といたします。

〈報告第13号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 閉会宣言